

## 2024年度 オープンスペース‘AYUMI’事業報告

(生活介護事業・就労継続支援事業B型・日中一時支援業・短期入所事業)

施設長 久永 洋

### 【生活介護事業】

- ・新規利用者 3名 (他事業所より)
- ・退所利用者 なし

#### ●軽作業班 (フロア)

○利用者 16名 ○職員 7名 (パートタイム勤務も含む)

作業活動においては、内職作業を中心に日々の活動を実施する。内職以外にも精米作業や油取り生活等への作業に取り組み、余暇活動やグループ活動を組み合わせながらメリハリある活動を実施した。途中、職員の退職等で人事配置を変更し、当初のスタッフ人数より少ない状況での活動となったが、職員間で連携、協力し難しい時期を乗り越えた。職員が少ない中でも、利用者それぞれの強みを引き出し、自ら活動に取り組む姿があった。

#### ●軽作業班 (個別)

○利用者 2名 ○職員 順次曜日担当 (パートタイム勤務も含む)

活動内容においては、自立課題やウォーキング等に取り組み、環境調整に配慮しつつ、活動を実施した。経験豊富な職員から勤務年数が少ない職員と幅広い職員が順次担当することで、良い面、難しい面とあったが、ケース会議等で情報共有を図りながら、多面的、多角的に利用者とかかわることができるきっかけとなった。行動面での特性がある利用者ということもあり、チーム支援の必要性が感じられた。

#### ●手工芸

○利用者 11名 ○職員 6名 (パートタイム勤務も含む)

手漉き紙を中心に活動を実施し、手漉き紙商品やフェルトボールの作成等、継続して作業活動を行なう。利用者が前向きに取り組めるよう作業や活動を提供しながら、感覚過敏 (声や音等) の利用者の対応や集団で過ごすことが難しい利用者への配慮を行なった。活動場所が2カ所ということで、情報共有を丁寧に、職員間で声を掛け合いながら連携を図った。

#### ●ワーク

○利用者 10名 ○職員 5名 (パートタイム勤務も含む)

コミュニケーションカードや個別のスケジュールを活用しながら、グループでの活動も取り入れ日中活動を行う。作業内容として、酒パックのラミネートはがしやポスティング、運動を取り入れ、様々な活動に取り組んだ。また、個室を利用することで、落ち着く場所を確保し、利用者 と相談しながら、作業や活動の幅が広がるようきっかけ作りを行った。その中で通所日数の増加、コミュニケーションの機会、信頼関係の構築等良い面が多く見られた。

#### 【就労継続支援事業B型】

- ・新規利用者 なし
- ・退所利用者 なし

#### ●秋篠パン工房

○利用者 14名 ○職員6名（パートタイム勤務も含む）

正職員が3名から2名体制となり、パンの製造、利用者支援等で難しい時期もあったが、職員間で連携、協力し売り上げも昨年度と同様、利用者の出勤率も下がることなく継続した事業運営を実施した。また、新商品の開発等、季節を感じられるパンの製造、販売を継続しながら、利用者自身のスキルアップや働く意欲の向上を図った。地域交流においても、地域の祭りやバザーへの出店、平城っ子クラブでのパン作り体験等、地域に開かれたパン屋に取り組んだ。

#### 【日中一時支援事業】

主に一般就労者が利用する事業となり、仕事のない日の来所や相談事がある時等、利用者に合わせて事業を実施した。利用者がリフレッシュ出来るよう慣れ親しんだ職員や久々に会う仲間と関わる機会とした。

#### 【短期入所事業】

火曜日と木曜日（男性、女性隔週）での実施となる。昨年度に引き続き、申し込みも多く（特に男性）キャンセルしなければならない状況もあった。出来る限り受けられるよう職員間で連携を図り、状況に応じて、火曜日、木曜日以外にもご家族の介護負担軽減や緊急ショートステイ等柔軟に対応した。

#### 【外部研修】

- 自閉症eサービス、サービス管理責任者研修、強度行動障害研修、奈良市施設長会議研修会

#### 【外部関係】

- 学校実習：奈良西養護学校、奈良東養護学校、南山城支援学校、奈良養護学校
- 体験実習：奈良大学、平城小中学校、京西中学校、登美ヶ丘中学校
- 連携機関：奈良市障害者施設長会議、奈良県知的障害者福祉協会、その他事業所等

## 【総評】

令和6年度障がい福祉サービス等報酬改定に伴い、単位区分が細分化（時間区分、人数区分等）され、当初は収入が心配されたが、あゆみの利用者は支援区分の高い利用者（重度加算等）が多いことや日々手厚いスタッフ配置、強度行動障害研修の受講職員が多いことで良い方向にいくこととなった。また、利用者の出勤率は年間を通して、昨年度より大幅に上がり、感染症等にも罹患する利用者も少なく、収入増に繋がった。そのうえ、年度途中には3名の利用者が加わることで、年度を通じて、出勤率は100%超えを継続することとなった。

日中活動においては、事業主任を中心に、情報の共有、連携を図る。退職職員が重なった時期は非常に難しい状況であったが、職員間での連携を強化し、人数が少ない班へヘルプに行くなど、臨機応変、柔軟に日々の利用者支援にあたる。昨年度の課題であったが、班同士での横連携も少しずつ改善され、班同士での報告、連絡、相談等の連携や協力体制を構築することを目指した。

イベントについては、運動会から始まり、あゆみ祭、クリスマス会&忘年会、たびりゃんせ、もちつき大会&20歳のお祝いを実施し、1年を通して職員と利用者が楽しむことが出来た。初めてイベントに参加する利用者や職員もいる中で、コロナ禍前とはまた違ったイベントの実施方法も発見することが出来た。イベント総括職員も初めての経験の中で、利用者と共に楽しめる案を検討し、あゆみの会全体で取り組む姿があった。

職員研修においては、e サービス、強度行動障害養成研修、奈良市施設長会議研修会に数名参加し、2か月に1度の内部研修を実施する。研修を実施する中で、グループワークを中心に意見交換の機会やアセスメント力の向上を図り、ストレングス視点や利用者のエンパワメントに繋がった。引き続き、内部研修、外部研修の機会を設け、職員のスキルアップを図りたいと考える。

昨年度に続き、退職職員が続く中であったが、雇用形態に関係なく、職員一人一人が責任を持ち業務に取り組み、少ない人数でコミュニケーションを図りながら、日々利用者との関わりを大切にした。特にイベントでは、共に創り上げることや共に経験、体験をすることでより一層関係性が深まり、職員、利用者の人となりを感じられたように思う。日常と非日常を組み合わせながら、その人にとっての生きがい、やりがいを共に見つけて、支え合う仲間として来年度も様々なことに取り組んでゆければと思う。

※別紙 2024年度 オープンスペース‘AYUMI’利用実数

以上